

シリーズ
地質調査のパートナー(12)

ヤマビル対策の切り札「ヤマビルファイター」

齋藤 眞¹⁾

私たちが調査に出かける日本の山野には、危険な生物がたくさんいます。熊やスズメバチが最も怖い生物でしょう。これらに対しては撃つか(?), 逃げるか、の対応しかありませんが、蚊、ダニ、ヒルなどは、なんとか防衛できる相手です。蚊やダニといった昆虫には、スプレー式の防虫剤が有効です(スキンガードがその代表でしょう)。ヒルに対しては、このイカリ消毒のヤマビルファイターがとても有効です。

ヤマビルは咬まれたことのある人は二度と忘れない、気持ち悪い動物です。茶色で縦に3本の線のある体長数センチの環形動物で、ミミズなどの仲間です。山の中のじめじめとしたところにおいて、人間のようなえさが来ると、地面から空に向かって口の方をツクツクと突き出します。群れでこの行動を行うのを見るとぞっとします。そこに足を踏み入れようものならすぐに足にとりついてきます。ヤマビルは足などにとりつくとは、そこでは血を吸わないで、隙間の暗がりに潜り込んで血を吸おうとします。スパッツで防衛していてもズボンとの隙間に入り込んできます。ズボンの中にまで潜り込むと、皮膚に喰い付き、血を吸うのです。その際、痛みを感じさせない物質を出すと言われており、何の感覚もありませんから、ヤマビルの吸いたい放題になります。そして、おなかいっぱいになって丸々とふくれると、勝手にポロッと落ちます。ヤマビルは「ヒルジン」という血液を固まりにくくする物質を出すので、喰われた後は、血が止まらず、いつの間にかズボンは血まみれ・・・となって「やられたー」と気が付くのです。足に付いて血を吸っているところを素手でとるのは気持ち悪いので(足に付いている状態も充分気持ち悪い)、軍手をして取ってやると、血がたらたら出てきます。ヤマビルは、無理にとると血が止まらないのですが、虫除け剤ないし駆除剤をスプレーしてやると勝手に落ちるようです(*1)。なお、



ヤマビルファイターは、使用上の注意をよく読み、用法容量を守って正しくお使い下さい。

ヤマビルは、殺してやろうとハンマーで殴っても、ゴムのよう弾力性があるグニュッと逃げてしまいすぐに死ぬことはありません。しかし、2つに切断するといずれ死にます。

1) 産総研 地質調査情報センター

キーワード: ヤマビル, 地質, 調査

このヤマビル対策には、ヤマビルファイターが抜群の効果がります。私の経験では、これを使い始めてから1回もヤマビルにやられていません。現地で雇った作業員の方にも使ってもらったところ、足は完璧に防御できたのですが、用を足すために尻を出したら喰われたという話もあるほどです。本年10月22-26日の日程で房総半島で行われたGSJ認定第1回地質調査研修でも大きな威力を発揮したようです。ヤマビルファイターの能書きを読むと、水性塗料のマイクロカプセルの中にデイトを閉じこめてあり、ヤマビルがとりつくとカプセルが破裂してデイトが溶出し、ヤマビルを寄せ付けないとされています。また、一度乾けば、ある程度の耐水性ができ、効果が2-3週間程度持続し、少々濡れても問題ないとされています。

ヤマビル対策は足をスパッツ等で密閉し、ヤマビルファイターをかけるのが第一ですが、ヒルのいるところで立ち止まらないことも重要です。流れている川の中にヤマビルはいないので、立ち止まるときは両足を流水につけるのは効果的です。乾燥した大きな岩の上もヤマビルは苦手です。逆に水辺などは、大変危険です。私のジュラ紀付加体での経験では、石灰岩を含むところには多くいるようで、メランジュ中の石灰岩ブロックに群がっていたのを見たことがあります。石灰岩・苦鉄質火山岩類の多い三重県北部の鈴鹿山

系ではヤマビルが多いことが知られています。鹿が多く住む場所にもたくさんいるような感じです。丹沢、房総などにも多く、また1つの地域の中でも、いる沢といない沢があり、地元の人にヤマビルの存在の有無を聞くと心構えができます。寒くなると活動を停止して落ち葉の下などに隠れますので、できるなら霜の降りる季節に調査をしたいものです。

ヤマビルにやられたと言って“事故”、“ヒヤリハット”を報告することのないよう、しっかりと防御して藪には入りましょう。

(参考)

イカリ消毒

<http://www.ikari.jp/>

ヤマビルをはじめ、さまざまな害虫の解説と対処法を掲載。

ヤマビル研究会

<http://www.tele.co.jp/ui/leech/index.htm>

も参考になります。

*1：ヤマビルファイターの姉妹品で、ヤマビル駆除剤のスーパーヤマビルジェットがあります。